


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【群馬県】

学校名【沼田市立沼田南中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>全校生徒（男子 76名 女子 87名 計 163名）</p> <p>第1学年（男子 27名 女子 27名 計 54名）</p> <p>第2学年（男子 18名 女子 30名 計 48名）</p> <p>第3学年（男子 31名 女子 30名 計 61名）</p> <p>教職員（22名）</p> <p>保護者や家族</p> <p>地域住民</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（国語、英語、保健体育、美術、技術・家庭、道徳、特別活動、総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（運動会）</p> <p>③ その他（特別講演会、2年東京校外学習、校舎内の環境整備）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（南中聖火リレー）</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックについて学習することで、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を深めるとともに、オリンピズムについて知り、オリンピックムーブメントを推進する。
5 取組内容	<p>1 各教科における取組</p> <p>【5月】</p> <p>○3年英語「Presentation 1 日本文化紹介」</p> 

○3年道徳 A-4 主題名「希望と勇気 克己と強い意志」
資料名：銀メダルから得たもの（吉田沙保里）



○2年道徳 A-4 主題名「希望と勇気 克己と強い意志」
資料名：自分を諦めない、立ち上がった瞬間が自信になる（為末大）



○1、2年技術 「オリパラピクトグラムポスターの製作」



【6月】

○2年道徳 C-11 主題名「公正公平」
資料名：公平なルールや社会について考える
(I' mPOSSIBLE 活用)



【7月】

○全学年保体 Gダンス ア 創作ダンス / イ フォークダンス
「東京五輪音頭 2020」

※公開授業



○全学年国語 「人権作文」

※テーマの一つとして設定

【10月】

○1年保体 体育理論「運動やスポーツへの多様な関わり方」

○2年保体 体育理論「運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果」

○3年保体 体育理論「人々を結びつけるスポーツの文化的な働き」

○1～3年 体育理論「スポーツ大会を支えよう」

※升形小マラソン大会を「支える」活動

(準備運動補助、試走でのペースメーカー、走路の安全確保・応援、誘導係など)



【12月】

○1年美術 デザイン「金メダルに想いを込めて」

※授業公開および授業研究会



2 行事における取組

○運動会 「南中聖火リレー」実施

※3年生有志がオリジナル聖火トーチを作成

※教職員有志がオリジナル聖火台を作成

※3年生による運動会に向けての校区内の模擬聖火リレー実施

※聖火ランナーは、運動会実行委員ほか3年生有志

（本校を出発し、沼田市役所前～校区内小学校～本校のルート）

※開会式において、聖火ランナーが聖火台に点火



○運動会 「東京五輪音頭 2020」を発表

※「～きびきびバージョン～」(生徒)

※「～ゆうゆうバージョン～」(生徒、家族、地域の方々)





3 その他の取組

○特別講演会 演題『人間力を高めるために』

講師 日本体育大学 スポーツ文化学部 武道教育学科 教授
山本洋祐氏（ソウルオリンピック柔道男子65kg級銅メダリスト）



○2年総合 東京校外学習「パナソニックセンター東京」訪問

※事前学習 保健体育「オリンピズム、オリンピックムーブメントを知ろう」

※事前学習 総合「おもてなしインタビューをしよう」

※事後学習 総合「東京校外学習新聞をつくろう」



4 校舎内の環境整備

- 身近にオリンピック・パラリンピックを感じられるように、技術科の授業で生徒が作成したピクトグラムや、東京2020候補選手の写真、マスコットキャラクター、ミライトワとソメイティを掲示
- 廊下にオリパラコーナーを設置し、各競技の日程や聖火リレーの日程を掲示することで、オリンピックやパラリンピックの情報を提供
- 陸上競技の走り幅跳び、走り高跳びの世界記録と日本記録を実際に比較し、視覚的に体感



6 主な成果

- 各教科や行事などを通して、日常的にオリンピック・パラリンピックに触れることになり、生徒がオリンピック・パラリンピックを身近に感じることができた。
- 東京2020聖火リレーのコンセプトを生徒や教職員全体で理解することができた。
- オリンピック・パラリンピックの要素を盛り込んだ運動会に向けて、学校全体の盛り上がりを感じることができた。
- 校区内の小学校と連携・協力し、オリンピックムーブメントの実践ができた。
- 地域に対して、本校のオリンピック・パラリンピックに向けての取組について発信することができた。
- 運動会をオリンピック・パラリンピック学習の発表の場とすることで、東京2020大会を身近に感じるとともに、オリンピックムーブメントや東京2020大会について多面的に理解することができた。

	<p>○保護者や地域の方々と一緒に東京五輪音頭2020を踊ったことで、地域と一体となったオリンピックムーブメントを推進できた。 【I'mPOSSIBLE 生徒アンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公平」という意味は今まであまり考えたことがなかったけれど、今日の授業で、状況に応じて、相手を理解しようとするのだと感じた。 ・今までは体の不自由な人を「助ける」という感覚だったけれど、今日の授業で「一緒に考える」という感覚に変わりました。 ・特別なルールを作ってしまうと、そのスポーツを「楽しむ」という本質が失われてしまうことがわかりました。 <p>【山本洋祐先生 講演会 生徒アンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りから信頼されるために、様々な刺激（経験）が今後大切になると感じました。 ・一人の時の努力が、本当の努力であり、最高の努力であることが先生の話から伝わってきました。一人の時こそ頑張る時だと思いました。 ・今回は柔道の話だったけれど、「人間力」については、スポーツ以外でも当てはまることがあると思いました。
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>○地区の運動会が盛んであり、地域の方々が中学校の運動会への興味・関心をもっていることから、参加を促したことで、多くの参加を得ることができた。</p> <p>○運動会が土曜日開催であり、保護者や地域の方々が参加・観戦しやすかったり、お便り等で呼びかけたりしたことで、「東京五輪音頭2020」へ参加してもらいやすい状況をつくることができた。</p> <p>○2つの小学校が校区にあるが、1校は本校の校庭でマラソン大会を実施していることから、小中の連携を図ることができた。</p>
8 主な課題等	<p>○オリンピック・パラリンピックが、保健体育の学習だけにとどまることなく、他の学習指導や生徒指導など、すべての教育活動に関わると考えることで、単なるスポーツのイベントではなく、オリンピック・パラリンピックが目指すオリンピックムーブメントに迫れると考える。</p> <p>○今後も、校内研修などとも関連させて、オリンピック・パラリンピック教育に関する学習を各教科等の教育課程、年間指導計画に位置付けていく必要がある。</p> <p>○模擬聖火リレーは、地域と協働しながら、更に盛り上げることができると考える。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ボランティア精神については、小学校のマラソン大会を支える活動を通して育成していきながら、他の部分でも小学校との連携を推進していく。</p> <p>○「東京五輪音頭2020」は来年度も継続して行うとともに、例えば、「車椅子バージョン」をお年寄りなどに発信していったり、オリンピックの要素を取り入れた新しいプログラムを考えたりする予定である。</p>